

第8期計画に向けた施策体系の見直しについて(案)

～ PDCAサイクルによる進捗管理を行うために ～

第7期計画の反省点

- ① 施策・事業を行なうことが目的化してしまった。
- ② 施策・事業を行なった成果(効果)を測るための指標を設定できなかったため、目標に近づいているのかが測れない。そのため、事業を何回やったかなどの実績管理となってしまう、適切な事業評価ができない。
- ③ 現状分析が不十分であった。

第8期計画の策定に向けて

- ① 目的と目的達成のための基本方針を設定する。
- ② 基本方針ごとに「目指す姿」を設定する。
- ③ 「目指す姿」に対する現状を把握し、課題を抽出する。
- ④ 課題の中から優先的に取り組むべき課題を設定する。
- ⑤ 設定した優先課題に対し、具体的な目標と指標を設定する。
- ⑥ 目標を達成するための手段(施策・事業)を設定する。

目的

高齢者が生きがいを持ち、住み慣れた地域で健康で安心して暮らせるまちの実現

基本方針(①～③)

目指す姿

① 高齢者が健康で、いきいきとした生活を送ることができる

【第7期計画に記載した施策の方向性】

- ・介護予防の推進
- ・健康づくりの推進
- ・生きがいづくりの推進
- ・高齢者の社会参加と社会貢献の促進
- ・介護予防・日常生活支援総合事業の推進

② 住み慣れた地域で安心して暮らすことができる

【第7期計画に記載した施策の方向性】

- ・日常生活を支援する独自サービスの充実
- ・医療と介護の連携推進
- ・医療と介護サービスの情報共有や連携支援
- ・在宅医療・介護サービス提供体制の構築
- ・認知症に対する理解の促進
- ・認知症の予防と早期発見・早期対応の推進
- ・認知症の人とその家族などの介護者に対する支援の充実
- ・地域包括支援センターの機能強化
- ・地域ケア会議の推進
- ・地域での支え合い機能の強化
- ・権利擁護体制の充実
- ・成年後見制度の利用促進
- ・多様な住まい方の支援
- ・高齢者にやさしいまちづくりの推進

住み慣れた地域で安心して暮らすことができるということにおいて、「医療と介護が必要になっても」という場面が想定される。この場合、さらに①日常の療養、②(入)退院時、③急変時、④看取りのケースが想定される。

在宅医療・介護連携は、この①～④において医療と介護の関係者が連携を図ることで、医療と介護の両方を必要とする高齢者が、住み慣れた地域で安心して生活することができることを目指す。①～④の場面ごとに「目指す姿」を設定する。

例)退院時連携の目指す姿

「キーパーソンが適切に関わった上で、本人が納得して、不安なく、適切な場所(本人が望む場所、本人が納得した上で状態や状況に応じて選択される場所)に退院することができる。」

③ 自立した日常生活を支える介護保険サービスの充実

【第7期計画に記載した施策の方向性】

- ・介護保険制度の適正・円滑な運営
- ・介護サービスの基盤整備の推進
- ・介護給付の適正化
- ・介護サービスの質の向上
- ・低所得者に対する利用者負担の軽減